

京都市立東総合支援学校 令和7年度 後期学校評価について

後期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました

後期学校評価アンケートは、Formsのアンケートで行い、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見を基に、後期の取組について分析をしました。

紙面では、今回の結果と分析、学校の取組内容や改善策等について記載しています。今回の結果や自由記述でいただいたご意見は、全教職員で共有し、課題改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

<後期学校評価のねらいと方法について>

(1) ねらい

- ◎今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、後期の取組に対する達成状況等を明らかにする
- ◎達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取り組む

(2) アンケート実施方法

- ◎ 調査対象 : 児童生徒、保護者、教職員
- ◎ 時 期 : 令和8年1月中旬
- ◎ 回 答 者 : 児童生徒、保護者（1家庭に1回答）、教職員
- ◎ 調査方法 : 3つの選択肢（児童生徒：はい、いいえ、わからない 保護者：できている、できていない、わからない）
※教職員は2つの選択肢：できている、できていない）の総数に対して数値を出し分析しています。

(3) 回答率

	児童生徒（136）		小保護者（48）		中保護者（26）		高保護者（62）		教職員（114）	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
回答数	77	63	36	30	16	15	39	38	117	114
回答率	—	—	76.6%	62.5%	64%	57.7%	61%	61.3%	100%	100%

(4) アンケート結果

- ◎「いのち」「よりそい」「つとめ」「ひろがり」「つながり」の重点教育目標別に項目をまとめました。
- ◎児童生徒アンケートは肯定的回答、否定的回答、わからないの回答を掲載しています。保護者アンケートは（上段）肯定的回答、（中段）否定的回答、（下段）わからないの数値を学部ごとに掲載しています。教職員アンケートは肯定的回答と否定的回答を掲載しています。
- ◎前期と比べて、肯定的回答の割合が、5%以上上がっている項目を青、10%以上上がっている項目を青の下線、5%以上下がっている項目を赤、10%以上下がっている項目を赤の下線で着色しています。

「いのち」安心安全な学習環境								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	小	学校は楽しい	88.3	92.1	2.6	0	9.1	7.9
	中高	学校に安心して生き生きとできる時間や場所がある						
2	小	自分や人にやさしくしている	83.1	<u>92.1</u>	0	1.6	16.9	6.3
	中高	自分や人にやさしくしている						
3	小	安全に過ごすための学習をしている	83.1	87.4	2.6	6.3	14.3	6.3
	中高	安全に気をつけて自分の命を守る行動をしている						
保護者			小学部		中学部		高等部	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
1		学校は、子どもが安心して生き生きと学べる環境を作っている	91.9	90.0	87.4	100	94.8	92.1
			0	0	6.3	0	2.6	2.6
			8.1	10.0	6.3	0	2.6	5.3
2		学校は、命や性に関する学習を通して、自分や人を大切にすることを育てている	70.3	77.7	75.0	66.7	71.8	81.6
			0	0	0	0	2.6	0
			29.7	23.3	25.0	33.3	25.6	18.4
3		学校は、安全、防災・防犯に関する学習を通して、自分ができることや心身を守る力を育てている	81.1	86.7	87.5	86.7	74.4	89.5
			0	0	0	0	0	0
			18.9	13.3	12.5	13.3	25.6	10.5
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
1		子どもが安心して生き生きと学べる環境を作っている	99.1	100	0.9	0		
2		命や性に関する学習を通して、自分や人を大切にすることを育てている	99.1	97.2	0.9	2.8		
3		安全、防災・防犯に関する学習を通して、自分ができることや心身を守る力を育てている	99.1	99.1	0.9	0.9		

【「いのち」安心安全な学習環境】

1の項目は、全てのアンケートにおいて肯定的回答は90%近く、もしくは90%以上の高い数値となりました。この結果から、児童生徒が毎日安心して通学し、学校生活を送り学習や行事等に取り組んでいることが伺えます。児童生徒がクラスメイト、学年の友だち、他学年の児童生徒と一緒に笑顔で活動したり、意欲的に学習に臨んだりする姿が見られます。一つ一つの学習や活動をやリ遂げ達成感を得ることで、自信を持つことにもつながっています。また、困ったときに担任をはじめ、学年や授業担当の教員に表現したり、相談・質問したりする姿が見られます。今後も引き続き、児童生徒が安心して学校生活を送り「学校に行きたい」「みんなと勉強したい」「先生と色々なことをしたい」と思い感じられるように、教職員が一人一人の現状を把握しながらしっかりとコミュニケーションをとり、その場に応じた適切な言葉かけや支援を行なっていきたいと思ひます。

2の項目は、児童生徒、教職員の肯定的回答は90%以上の高い数値となり、保護者の肯定的回答は小学部77.7%、高等部81.6%と前期よりも5%以上高くなっています。中学部66.7%と5%以上低い結果となりました。「わからない」の回答は18.4%~33.3%と他の項目に比べると高くなっています。イーストスタディ「命や性の大切さを知ることにつながる学習」として、児童生徒が生涯にわたり心身を守りともに尊重しながら生活していくために、どの学部も計画性をもち学習を実施しました。具体物や視覚的に分かりやすい教材（人形やイラストなど）を用いたことで、普段、視覚的に捉えにくい「清潔」「距離感」「自分や相手の気持ち」「思春期の心身の変化」などを意識することにつながりました。今後は、さらに児童生徒の考え（気付き・感じる）を深められるように学習を積み重ねていくことで、生涯にわたり心身を守り、ともに尊重しながら生活していくための力を育てていきたいと思ひます。そして、家庭や地域でも発揮できるよう家庭とも情報共有し取り組んでいきたいと思ひます。

3の項目は、児童生徒、保護者、教職員の肯定的回答は85%以上の高い数値となりました。避難訓練は、後期に「地震」を想定して実施し、保護者の方々のご協力のもと「引き渡し訓練」も併せて行いました。教職員研修として「防犯研修」を実施しました。校内に不審者が入ってきたことを想定したシミュレーションし、山科警察署の方に助言いただきました。

イーストスタディ「安全な生活を送ることにつながる学習」として、防災・防犯に対する意識の向上を図り緊急時の対応力を高めるために、各部とも避難訓練やそれに伴う事前・事後学習では「災害安全」について学習を深めることができました。避難訓練では「机の下に隠れる」「防災頭巾やヘルメットをかぶる」「静かに避難する」「周りの人に気を配る」ことなど、学習したことをもとに行動する姿を見ることができました。また、後期には、小学部の児童は山科消防署と連携し消防車の見学や消火器の使い方、火災の時の避難の仕方、衣服に火がついたときの対処方法について知ることができました。中学部の生徒は京都橋大学の防災サークルと連携し「身近なもので防災グッズを作る」ことや「段ボールベッドを組み立て横になってみる」ことなどを通して、防災について考え生かす機会としました。このように年間を通して「災害安全」については、学習を積み重ねて、防災に対する意識の向上を図り、緊急時の対応力を高める力を身に付けることができたと思ひます。来年度は、「災害安全」と共に「生活安全」や「交通安全」についても学び、有事の際に落ち着いて適切に行動できる力を育み、学校以外の家庭や地域でも安心安全に行動し、自分を守る力を身に付けられるようにしていきたいと思ひます。

「よりそい」人権教育の推進								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
4	小	色々な先生と学習や活動ができてうれしい	87.0	96.8	2.6	0	10.4	3.2
	中高	色々な人と関わったり活動したりしているので安心して過ごしている						
5	小	やりたい学習や活動がある	83.1	85.7	2.6	4.8	14.3	9.5
	中高	自分から挑戦したり、考えたり、行動したりする学習や活動がある						
保護者			小学部		中学部		高等部	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
4	学校は、複数担任制等、全教職員で子ども一人一人と関わり丁寧に寄り添っている		86.5	83.3	100	93.3	86.5	89.5
			5.4	3.3	0	0	0	2.6
			8.1	13.4	0	6.7	13.5	7.9
5	学校は、一人一人のねらいに合わせた「個別の包括支援プラン」を基に、子どもが意欲的かつ主体的に活動できる授業を行なっている		78.3	93.3	93.8	100	82.1	89.5
			2.7	0	0	0	2.6	0
			18.9	6.7	6.2	0	15.3	10.5
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
4	複数担任制等、全教職員で子ども一人一人と関わり丁寧に寄り添っている		98.3	98.1	1.7	1.9		
5	一人一人のねらいに合わせた「個別の包括支援プラン」を基に、子どもが意欲的かつ主体的に活動できる授業を行なっている		99.0	90.7	1.0	9.3		
【「よりそい」人権教育の推進】								
<p>4の項目は、全ての項目で肯定的回答が80%を超える数値となりました。特に児童生徒の回答では、前期の87.0%から後期は96.8%となりました。児童生徒が複数の担任と一緒に安心して学習や活動できていることが伺えます。全教職員が学部や学年に関係なく、全ての児童生徒に関わり、寄り添うという意識を持ち、日ごろから指導支援を行なってきました。児童生徒は、教室や学習場所にいる複数の教員に見守られながら、生き生きと学習や活動に取り組んでいます。担任以外の教員にも積極的に話をしたり、関わったりする姿が見られます。今後も、担任や学年の教員が中心となり、一人一人に丁寧に寄り添い、複数の教員の視点で見守り、個に応じた配慮や支援を共通理解しながら児童生徒の多様な能力や個性を伸ばしていきたいと思えます。</p> <p>5の項目は、全ての項目で肯定的回答が85%を超える数値となりました。特に保護者の回答では、前期に比べ数値が5%以上高くなっています。子どもを「できる存在」として捉え、個別の包括支援プランを基に児童生徒が「意欲的かつ主体的に活動できる」ように、学習内容や支援を工夫してきました。さらに、校内研究では日頃の学習場面での「主体的な姿」をどのように引き出すのかを考えながら実践を行なってきました。児童生徒の、興味のあることや変化したことに気づいたり感じたりする姿、すぐにできなくても何度も挑戦する姿や試行錯誤する姿、誰かと一緒にしようとする姿、などが見られるようになりました。来年度も、校内研究や教員の専門性を高め、学習内容や支援の精選・創意工夫することに取り組む、児童生徒が「意欲的かつ主体的に活動できる」授業実践を進めていきたいと思えます。</p>								

「つとめ」学ぶことの意義								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
6	小	先生は優しく教えてくれる	81.8	85.7	3.9	4.8	14.3	9.5
	中高	目標に向けて学習に取り組んでいる						
7	小	ICT機器（アイパッドやスイッチ）を使って学習している	84.4	87.3	6.5	4.8	9.1	7.9
	中高	自分の生活に生かせるようにICT機器（アイパッドやスイッチ）を活用している						
保護者			小学部		中学部		高等部	
6		教職員は、「教員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にしている	78.4	90.0	81.3	93.3	74.4	89.5
			0	3.3	0	0	0	0
			21.6	6.7	18.7	6.7	25.6	10.5
7		学校は、子どもが主体的に学べるように、ICTを活用して生活に生かす力を育てている	48.6	56.7	68.8	80.0	69.2	81.6
			0	0	0	0	0	0
			51.4	43.3	31.2	20	30.8	18.4
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
6		「教員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にしている	98.3	98.1	1.7	1.9		
7		子どもが主体的に学べるように、ICTを活用して生活に生かす力を育てている	84.6	89.8	15.4	10.2		
【「つとめ」学ぶことの意義】								
<p>6の項目は、全ての項目で肯定的回答が85%以上の数値となり、また前期に比べて後期の数値が高くなっています。特に保護者の回答は全ての学部で10%以上高くなっています。日頃から児童生徒に対し、全教職員が人権を尊重した言葉づかいや態度を意識しながら接していることを授業参観や文化の部などを通して実感していただいていることが伺えます。</p> <p>後期はイーストスタディ「人権意識を育むことにつながる学習」を実施しました。各部ともに、様々な表情の写真、紙粘土、色水などの具体物や視覚的に分かりやすい教材を用いるなど、児童生徒が分かりやすく自分の気持ちや相手の気持ちなどについて考える（気付く、感じる）ことにつながりました。今後は、児童生徒の「身に付けたい力」を明確にし、児童生徒が学習し知り考え感じたことを、より深め、よりよく生きるための方法を得たり、お互いの生き方や価値観の違いを認め合ったりし、ともに尊重しながら協働していこうとする姿を育てていきたいと考えます。また、家庭や地域でも発揮できるよう家庭とも情報共有し取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>7の項目は、児童生徒、教職員の肯定的回答は85%を超える数値となり、保護者の肯定的回答は小学部は56.7%、中学部、高等部は80%を超える数値となりました。前期よりも数値は高くなったものの「わからない」の数値は他の項目に比べ高くなっています。日頃から児童生徒はスケジュールの確認、アプリケーションを使用した文字や数字の学習、テーマに沿った写真を撮る、自らの意見や考えをまとめグループ内で共有</p>								

する等、様々な学習場面でタブレット端末を使用し学習をしています。また、身体を動かすことを課題とした学習で、デジタル インターラクティブ リハビリテーション システム（※デジリハ）を活用し、普段、自ら腕を動かすことがむずかしい児童生徒が動いている映像を見て触れようと腕を伸ばしたり、「もっと触りたい」「もっとやりたい」と跳んだり大きく身体を伸ばしたりする等、主体的に身体を動かし、身体を使うことの楽しさを感じることができました。また、参観日には保護者の方に体験していただく機会を設定しました。

今後も、研修や学習会を実施し、教職員のICTの専門性を高め、児童生徒が主体的に学びを深めるための授業を作っていくたいと考えます。そして、学校ホームページや連絡帳、授業参観や学校行事等を通じて保護者の方や地域の方に知ってもらえるようにしていきたいと思ひます。

「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
8	小	色々な人と出会い、たくさんものを見たり、感じたりしている	76.6	92.1	2.6	0	20.8	7.9
	中高	自分の力を発揮して、色々な人と関わり活動している						
9								
保護者			小学部		中学部		高等部	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
8	学校は、豊かな自然と地域資源を活用し子どもたちの世界（視野や経験、意識）が広がる学びを取り入れた授業を行なっている		81.1 0 18.9	83.3 0 16.4	87.4 6.3 6.3	93.3 0 6.7	71.8 0 28.2	78.9 0 21.1
9	学校は、すぐーる、ホームページ、配布物等を通して、活動のねらいや子どもたちの様子等の情報を発信している		97.3 0 2.7	90 0 10	93.8 6.2 0	100 0 0	100 0 0	92.1 2.6 5.3
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
8	豊かな自然と地域資源を活用し子どもたちの世界（視野や経験、意識）が広がる学びを取り入れた授業を行なっている		85.5	92.6	14.5	7.4		
9	すぐーる、ホームページ、配布物等を通して、活動のねらいや子どもたちの様子等の情報を発信している		88.0	92.6	12.0	7.4		

【「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現】

8の項目では、小学部では大塚小学校との学校間交流を行い、お互いの児童を知り共に学習する有意義な時間となりました。防災学習の一環として山科消防署の方々に来校していただき、消火器を使う体験や消防車に見たり触れたり乗ってみたいりする体験するなど防災に対する意識を持つことのできる学習となりました。山科苑に伺い、利用者の方々が縫製された雑巾をいただいたお礼を伝えたり、学習で取り組んでいる楽器の演奏を披露したりすることを通して交流することができ、児童も利用者の方々も笑顔でやりとりをしたり、握手をしたりするなどしました。中学部では、京都橘大学「まちづくり研究会」と連携をし、ワークスタディ陶芸班の生徒が給付けの指導を受け体験をしました。さらに、防災学習の一環として「防災サークル」と連携し、防災についての話を聞いたり、防災グッズを作ったりしました。どちらの学習も大学の学生と交流しながら学ぶ貴重な機会となりました。高等部では、地域実践演習で学習する生徒が日頃の学習したことを地域の中で生かし発揮するために社会福祉協議会、大塚児童館、音羽児童館、山科苑など様々な地域の施設を活用し学習に取り組みました。また、山科苑の利用者の方々に、ライススタディで取り組んだ童謡やダンスを披露したり、ポッチャを通して交流しました。ワークスタディでは、学校周辺道路の清掃活動を行い、生徒たちが積極的に落ち葉やごみを箒で掃いたり火ばさみで拾ったりしていました。

今年度取り組んできた学習や活動を生かしながら、来年度も継続して学校と地域が連携し、児童生徒が校内の学習で学んだことを発揮する場を設定し、校内では経験できない緊張感や責任感を持ちながら取り組むことが大切であると考えます。そして、教職員が「何のために」地域の

方々と連携するのか、地域資源を活用するのかということを考え、児童生徒が地域に目を向け積極的に取り組もうする姿勢や態度を育てていきたいと思えます。

9の項目では、前期に引き続き後期も、日ごろから、児童生徒の学習の様子、学校給食、様々な学校行事、教職員の研修の様子など、本校の様々な取組をより多くの保護者や地域の方々に知っていただけるように東総合通信や学校ホームページなどで発信してきました。定期的に発行している進路だよりや保健だよりでも、進路や保健室の取組についてすぐーるで発信しています。さらに担任が中心となり、通知票をもとに学習のねらいや様子を伝えたり、連絡帳を通して毎日の児童生徒の様子や変化を丁寧に伝えたりすることで保護者の方々と共有しています。今後も引き続き、東総合通信、学校ホームページ、すぐーるなど、様々な方法で本校の児童生徒の様子や本校の様々な取組について発信することで、より多くの保護者や地域の方々に知っていただき、児童生徒の学習や活動を充実させていきたいと考えます。

「つながり」場を超える学習								
児童生徒			肯定的		否定的		わからない	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
10	小	好きなことやもの、やりたいことが増えた	71.4	68.3	5.2	6.3	23.4	25.4
	中高	自分の卒業後の生活を考えて、やりたいこと、学びたいことを伝えている						
11								
保護者			小学部		中学部		高等部	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
10	学校は、子どもが自らの進路選択・決定のために生活年齢に応じた得意なこと、興味のあることを広げ社会参加するための学習をしている		73.0	80.0	68.8	100	76.9	78.9
			0	0	6.3	0	2.6	0
11	学校は、就学前や校種間、小・中・高等部の学部間での引き継ぎを行い、学びの連続性や継続性のある授業を行なっている		27.0	20	24.9	0	20.5	21.1
			64.9	76.7	62.5	86.7	66.7	81.6
			2.7	0	0	0	7.7	2.6
			32.4	23.3	37.5	13.3	25.6	15.8
教職員			肯定的		否定的			
			前期	後期	前期	後期		
10	子どもが自らの進路選択・決定のために生活年齢に応じた得意なこと、興味のあることを広げ社会参加するための学習をしている		94.9	98.1	5.1		1.9	
11	就学前や校種間、小・中・高等部の学部間での引き継ぎを行い、学びの連続性や継続性のある授業を行なっている		86.3	90.7	13.7		9.3	

【「つながり」場を超える学習】

10の項目は、児童生徒の肯定的回答は68.3%、「わからない」の回答は25.4%となり、前期よりも課題の残る数値となりました。保護者の肯定的回答は前期に比べると高くなり、小学部80.0%、中学部100%、高等部78.9%となり、教職員は98.1%でした。前期に引き続き日ごろの学習や活動の中で、児童生徒が将来の進路選択に向けた土台作りのために、得意なこと、興味のあることを広げながら「自分で決める経験」を積み重ねてきました。しかし、「進路選択・決定のため」という教員の意図が児童生徒に伝えられていないことや、保護者に個別懇談会や連絡帳などで説明や共有できていないことが今回の結果に繋がっていると考えます。来年度は、クラススタディやライフスタディで進路学習として「将来や夢について考えること」や「目標に向かって取り組むことの大切さ」など学ぶことで、学習や活動のねらいを明確にし取り組んでいきたいと思えます。それにより、教員の意図が児童生徒に伝わり、保護者とも共有や連携がしやすくなり、より充実したものになると考えます。

11の項目は、保護者の肯定的回答は小学部76.7%、中学部86.7%、高等部81.6%と前期よりも高くなり、「わからない」の回答も改善が見られました。各授業、学習ごとに児童生徒が一人一人が「何を学び、どんな力が身に付いたのか」を把握し、次の授業、学習に生かしながら連続性や継続性のある授業を行ってきました。そして、児童生徒が一人一人が「何を学び、どんな力が身に付いたのか」について、個別懇談会や授業参観などの機会に保護者の方に知っていただいたり、観ていただいたりしたことが結果に表れたと考えます。今後は、児童生徒一人一人の「で

きる姿」や学んできた学習内容を整理することで、個別の包括支援プランや学習の記録などの内容の質的充実を図り、来年度に確実に引き継ぎ、連続性や継続性のある授業、学習を行なっていきたいと思います。

学校運営協議会より

- ・ICTに関して、東総合で実践されているスイッチやICTについてもっておられるノウハウを研修会等を実施していただいて、学びたいと思っている事業所はたくさんあると思うので、ぜひお願いしたい。これまで使われてきたICTは卒業後も使えると思うのでつないでいけたらいいと思う。
- ・イーストスタディに力を入れておられることがよく分かる。一週間の時数はどのようになっているのか？